

高床式砂栽培農業施設を活用した都市農業が
社会，経済，環境に与える影響の分析
その2 地域コミュニティ形成に果たす役割と課題

【代表者】

鍋島美奈子 大阪市立大学 工学研究科 准教授

【共同研究者】

佐久間康富 和歌山大学 システム工学部 准教授

内田佐和 東レ建設 トレファーム事業推進室 次長

【研究概要（申請書より抜粋）】

申請者らは H29 年度本研究助成制度において「高床式砂栽培農業施設を活用した都市農業が社会，経済，環境に与える影響の分析」という課題名で採択された。今年度は，同研究課題に副題をつけ，特に「地域コミュニティ形成に果たす役割と課題」について分析を深めていきたい。

砂栽培農法は都市農業に適した農法であり，都市部が抱える社会的な課題（中心市街地の活性化や，地域コミュニティの再生，健康寿命延伸）に親和性が高いことがわかっている。本研究の枠組みでは，農作業をおこなう地域住民（ファーム会員）と農園管理者との関りに注目し，都市農業が地域コミュニティ形成に果たす役割と課題を明らかにすることが目的である。H29 年度は，福岡県 UR 日の里団地の日の里ファームと，京都府精華町トレファームラボでのシェアリング農業の取り組みについてヒアリング調査とアンケート調査をおこなった。アンケート結果からは，ファーム会員にとって短時間の農作業はボランティア感覚が強く，会員活動を通して「友人」や「交流」ができることを重視していることが明らかになった。今年度は作業日報データの分析を行い，作業内容の種類と時間数から管理人が農作物管理とコミュニティづくりに果たす役割について分析を深める。また，今年度はトレファーム®を導入した神奈川県藤沢市の介護付き老人ホームを調査対象に加え，入居高齢者や職員の健康維持の観点から調査をおこなう。特に熱中症の危険が高まる夏場の作業環境と身体的負担について調査をおこない，対策提案につなげる。